

## 成果の説明書

(氏名) 田戸岡 好香	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>○教育</p> <p>「社会心理学」, 「社会調査 (量的調査)」, 「社会調査演習」, 「基礎演習」, 「演習 I」, 「演習 II」といった授業を担当した。演習 IIでは, 本学での社会心理学ゼミ 1 期生となる 12 名のゼミ生の卒業研究を指導した。</p> <p>○研究活動</p> <p>2020 年度は科学研究費補助金 (若手) を受けて, 『在留外国人への援助政策の賛意を促進するには: ステレオタイプの内容に注目して』という研究課題の下, 実験室実験およびオンライン実験による研究を行った。</p> <p>また, 共同研究では, 衣服が人の心理や行動に及ぼす影響について検討を行った。具体的な成果は以下のとおりである。</p> <p>【著書】</p> <p>田戸岡好香 (2020) 第 3 章 ステレオタイプ 『社会的認知: 現状と展望』 唐沢かおり (編) pp.39-52.</p> <p>【学術論文】</p> <p>石井国雄・田戸岡好香・松崎 圭佑 (2021). 集団状況におけるピンクの着衣が自己認知に及ぼす影響 清泉女学院大学人間学部研究紀要 18, 29-39.</p> <p>【学会発表】</p> <p>田戸岡好香・石井国雄 (2020). 若年無業者 (ニート) に対するステレオタイプ抑制方略の検討 日本社会心理学会第 61 回大会発表論文集, 48. (@学習院大学 web 発表 505, 2020.11.17-18)</p> <p>【受賞】</p> <p>2019 年度に Japanese Psychological Research に掲載された論文 (Ishii, Numazaki, &amp; Tado'oka, 2019) が Top Downloaded Paper を受賞した。</p> <p>上記に加えて, 新型コロナウイルス感染症流行下における偏見と流言に関する調査を行い, 学術論文を執筆し学術誌に投稿した。また, 心理学実験を 3 件行い, その成果を学術論文にすべく, 執筆中である。書籍としては, 翻訳書籍の一章を担当し, 2021 年度に発刊予定である。</p> <p>○学会・社会における活動</p> <p>① 心理学検定局運営委員</p> <p>② “Japanese Psychological Research”, 『心理学研究』, 『実験社会心理学研究』誌の投稿論文の査読を行った。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>学内における学生指導委員として, オンラインを中心に本学ボランティア活動支援室の周知活動を行った。また, 本支援室主催でボランティアのアイデアを学生から募るイベントを開催し, 新しいボランティア活動の立ち上げ支援を行った。</p>	

### 3 次年度以降の計画・抱負

教育面では、演習系の授業において、着実な指導を行い、実験や調査の実施を行いたい。講義科目については、コロナ禍ではさまざまな心理的課題が浮かび上がってきたため、そうした課題の解釈や解決に心理学が担う役割を意識しながら、最新の研究知見を取り入れた講義を行うこととしたい。

研究面では、科学研究費を受給している研究を引き続き進める。コロナ禍の影響で研究実施に少なからず影響があったため、現状に適応しながら研究を行っていく。また、実施した研究については学会発表や学術論文の執筆を行う。また、引き続き共同研究も積極的に行いたい。

学内では、ボランティア活動支援室の周知活動を続ける。また、本学の地域政策学会の理事として学会運営を行っていく。